

ひらまほいくえん



夏のある日、給食のすいかのたねを指でほじほじしている子どもが・・・。
なんで種を指でとるの？と疑問に思いませんか？

実は、口の中で種をより分けができずにすいかを食べられないという子どもの姿がありました。

そこで、平間保育園では、

「夏の終わりに、スイカのたねとぼし大会を開催しよう！！」

ということにしました。

それから、それぞれのクラスでスイカの種をより分ける練習を始めました。

最初はできなかった子どもたち。しかし、口の中を意識することから少しずつより分けができるようになりました。

大会当日、園長先生のお話を聞いて、コツを教えてもらいました。いざやってみると、意外と難しい！でも、チャンピオンはブルーシートを飛び出る位飛んでいました。



より分けは、口の中を意識することが重要です。経験を重ねれば誰でもできますが、最近では種を除いて食べさせていたり、種なしの果物も多く、子どもが練習できる場が少ないと思います。秋にはさんまの塩焼きをそのまま出していますが、より分けができると小骨もきちんと口から出すことができます。

楽しい経験を重ねながら、生きる上で大切なことも伝えていきたいと思っています。

